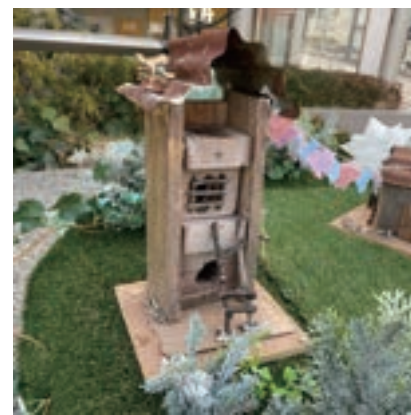


風使い “ぼたるん” が暮らす小さな街

～星が丘テラスウィンターイルミネーション 2024 との協働～

梶本雅好研究室 企画 佐藤みなみ 松岡 滯里



1. 背景

私たちが4年間通った星が丘テラスで形として残る物を作りたいという思いから企画を考え、毎年行われるウィンターイルミネーションとの連携企画を行い、地域の方々との交流を深めたいと考えた。

2. 目的

星が丘テラスのボタニカルタウンとしての役割を担い、そして、学生らしいアイデアを出しつつ、星が丘テラスとしての色を保ち、先輩が企画した“ぼたるん”を受け継ぎ、新しい形としてボタニカルタウンとしての星が丘テラスの提唱の一端を担うことを目的とする。

3. 企画内容

毎年11月から2月頃まで行われているウィンターイルミネーションとの連携企画。2024年のテーマが「風使いの丘」であるため、風に因んだ設定を考え、“風”を感じられる“ぼたるん”の家を計19個制作した。

4. スケジュール

本企画は、星が丘テラスウィンターイルミネーション2024との企画会議の段階から関わり、作品展示に向け制作を軸としたものである。スケジュールを【図1】に記す。

4月	<ul style="list-style-type: none"> 情報集め 材料集め
5月	<ul style="list-style-type: none"> “ぼたるん”の家制作 材料集め
6月	<ul style="list-style-type: none"> “ぼたるん”の家制作 イルミネーションとの連携企画会議開始
7月	<ul style="list-style-type: none"> “ぼたるん”の家制作 家のサイズ決定
8月	<ul style="list-style-type: none"> “ぼたるん”の家 点景制作
9月	<ul style="list-style-type: none"> “ぼたるん”の家 点景制作 キャラクターの決定 レーザー加工データ制作 報告書作成
10月	<ul style="list-style-type: none"> 点景制作 土台制作 装飾 レーザー加工 フライヤー制作 報告書作成
11月	<ul style="list-style-type: none"> 納品、展示 アンケート、パンフレット制作 報告書作成
12月	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンス アンケート実施 報告書作成

【図1】企画スケジュール

5. 材料集め

本企画の目的の一つであるボタニカルタウンとしての役割を担うために、廃材を使用した家の制作を考えた。そこでまずは廃材などの材料集めを行った【図2】。



【図2】材料集め

6.2 種類の“ぼたるんの家”

それぞれの家の設定について以下のようにした。

①モモンガの家

・木材、トタンを主に使用した家型【図3】

固定に釘、ねじを使用した。固定部分がはっきり見えない部分はねじを使用した。見えるものは経年変化を感じられ、違和感のないようにするため釘を使用し、錆びさせることで経年変化を感じられる作品にした。“綿毛の家”との区別がしやすくなるよう、装飾は主に木の枝を使用した。



【図3】木材、トタンでできた家

【図4】モモンガの服を着た“ぼたるん”

・モモンガの服を着て飛ぶ“ぼたるん”【図4】

・“ぼたるん”の洗濯物を干す【図9】

・レーザー加工機で制作した“風見モモンガ”を装飾【図11】

②綿毛の家

・スタイロフォームにモルモルを塗ったドーム型【図5】

ドアや窓を装飾する部分は予め凹ませて後からはめ込むことで一体感のある家にした。“綿毛の家”を連想させるために植物の装飾にもこだわった。スタイロフォームの素材を生かし、釘で穴を開けて松の葉を埋め込むことで装飾した。また、家型との区別をつけるため丸みを帯びた石を主に装飾に使用した。



【図5】ドーム型の家

【図6】綿毛に掴まって飛ぶ“ぼたるん”

・綿毛に掴まって飛ぶ“ぼたるん”【図6】

・レーザー加工機で制作した“風車”を装飾【図11】

7. 点景制作

①木の枝の点景

木の枝を用いて点景を制作した。はしごは木の枝で固定したものと麻糸で固定する2種類を制作した。麻糸はほどけないような結びで固定した。また、ベンチや牧などを制作し、生活感が出るようにした。【図7】



【図7】家の装飾に使用する点景

②洗濯物の点景

“モモンガの家”の“ぼたるん”の洗濯物を制作した。ハンガーはクリップをペンチで曲げて制作した。洗濯物は、1/20のサイズの型紙を制作し、合計で150個制作した。【図8】完成した洗濯物は12月8日の設営の日に向けてあらかじめ糸で結び、設営ができる状態にした。【図9】“ぼたるん”の帽子は、【図10】のように型紙を制作した。帽子の先端に輪を作り、色に通して干すというデザインにした。

そして、12月8日の設置の様子が【図11】である。



【図8】制作中の様子



【図9】完成した洗濯物



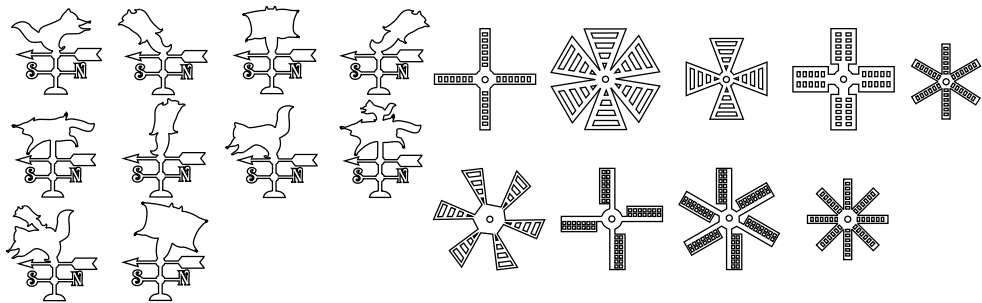
【図10】型紙、制作した帽子



【図11】洗濯物設営の様子

8. レーザー加工

2種類の家にそれぞれ装飾する“風見モモンガ”、“風車”のレーザー加工機のデータを制作した【図11】。ベースで数種類の形を作り、“風見モモンガ”は角度や向きを変え、“風車”は羽の数を変えることですべて異なったデザインにした。



【図12】レーザー加工機のデータ

“風見モモンガ”、“風車”は2.5mmのMDFで加工した。【図13】風車は直径6mmの棒に刺し【図14】、強度を高めるためにクリア塗装を行った【図15】。



【図13】完成した作品

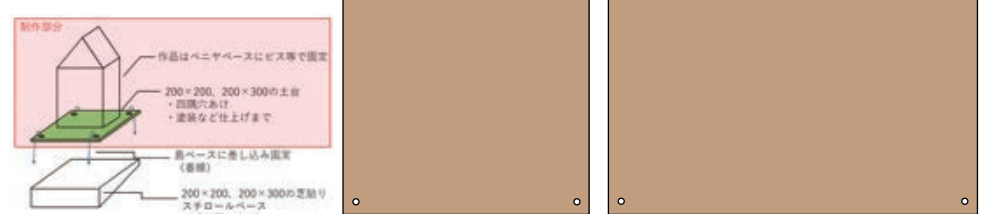
【図14】直径6mmの棒



【図15】クリア塗装

9. 土台

200×200の土台を13個、200×300の土台を6個制作した。設営の際にビス止めをするため四隅に予め穴を開けるデザインが土台の条件であった。【図16】の□部分を制作する。また、200×300の土台については、予め設置する際の縦横の向きが定まっているため、家を固定する際には実際に見える向きを考えながら設置する必要があった【図17】。



【図16】土台イメージ

【図17】200×200の土台、200×300の土台

土台は9mmのMDFで制作した。切断した後、四隅の穴を開けた。ねじで一度貫通させ、抜くことで穴を開けた。【図18】家に固定する際は、土台の裏側からねじで固定し、砂で装飾した。【図19】



【図18】土台制作中の様子

【図19】土台固定、装飾の様子

10. 作品

“モモンガの家”を10個、“綿毛の家”を9個、計19個の家を制作した。全体的に見た時に“2種類の家”の統一感があるようなデザインにした。そして、それぞれの家を見た時に生活感が感じられる装飾や細部までこだわっているデザインとして見てもらえるようなデザインを目指した【図20】。

風見モモンガが目印で、トタンの三角屋根と3階建てが特徴の家である。はしごに登って洗濯物を干し、メタセコイアやドングリを貯蔵する貯蔵庫としての役割がある。	風見モモンガが目印で、小さいトタン屋根が特徴で、木の枝のかごにはどんぐりやメタセコイアを入れて置く。木の枝の椅子で休憩をしたり、石で散りばめられた装飾も特徴である。	風見モモンガが目印で、2階建てになっている。2階部分は小さな部屋になっていて、木の枝で作った椅子や石で壁を装飾した。屋根には“ぼたるん”の洗濯物を干しているところも特徴である。	風見モモンガが目印で、四角いトタン屋根やコルクの壁が特徴である。玄関が小上がりになっていて、下のスペースには木の枝の椅子など物置の役割もある。側面の壁にある“ぼたるん”の洗濯物も装飾の一つである。	風見モモンガが目印で、2階建ての家である。玄関の木の柱も特徴的な家で、様々なところに石の装飾が散りばめられている。屋根には“ぼたるん”の洗濯物を干している。
風見モモンガが目印で、制作した家の中で最も経年変化を感じられる家である。1階の小上がりには薪を置くスペースがあり、目の前で焚火を行えるスペースを作ったところも特徴である。	風見モモンガが目印で、どんぐりやメタセコイアの貯蔵庫としての役割がある。木の枝で作ったブランコを置くことによって遊び心を演出した。	風見モモンガが目印で、斜めの大きいトタン屋根が特徴の家である。窓やドアは木の枝や木の皮で装飾した。玄関に置いた椅子は小休憩が出来るスペースとなっている。	風見モモンガが目印で、長方形の家が特徴である。屋根には“ぼたるん”の帽子が干してあり、家の側面には屋根に上がるための木の枝のはしごや薪を置いて生活感を演出した。	風見モモンガが目印で、“ぼたるん”の洗濯物干すための家である。木の柱が特徴的で、家の周りには石の装飾をしている。内部は“ぼたるん”服や帽子をたくさん干している。
風車が目印で、2階部分が空洞になっているため、“ぼたるん”の広場のような役割がある。家自体に植物を植えて、“ぼたるん”が植物を大切にしていることを表現した。	風車が目印で、木の枝と麻糸の柵が特徴である。木の枝で階段を制作し、木のぬくもりが感じられる家にした。壁には石の装飾をし、自然に溶け込むような家にした。	風車が目印で、テラスのようなスペースがあるのが特徴的である。テラスの机にはボタンを使用しており、石の道や木の枝のはしごも特徴的な家である。	風車が目印で、どんぐりやメタセコイアを貯蔵する貯蔵庫としての役割がある。白砂を装飾したこと、実際に道が開けているような表現をした。	風車が目印で、ドーム型の家の形状が特徴である。1階部分には貯蔵できるスペースがあり、2階は居住スペースとなっている。2階部分には植物を植え、全体的に統一感を出した。
風車が目印で、大きい木の皮のドアが特徴的である。2階部分にはちょっとした空間があり、“ぼたるん”の街全体を見渡することができる。木の枝で作った。	風車が目印で、どんぐりやメタセコイアを貯蔵する貯蔵庫としての役割がある。もう一つの貯蔵庫とは丸の位置を変え変化を持たせる工夫をした。	風車が目印で、2階には薪を収納するスペースがあることが特徴である。石の装飾が家の全体あり、なかでも個性的な家を制作した。家のサイドの木の窓がいくつかあるところも特徴である。	風車が目印で、半月型の窓が特徴で、2階の少し小さい部屋になっている。植物を植えこじまりとした家を出した。右下にはちょっとしたスペースがあるところも特徴的である。	作品の画像
				作品の説明

【図20】完成した作品

11. フライヤー

“ぼたるん”についての説明、日時、場所、2種類の家、橋本雅好研究室のインスタグラムをフライヤーにまとめた。家の配置やフォント、全体の色のトーンを合わせるなど、細部までこだわった。説明文が多すぎてしまわないように端的にまとめ、強調させたいところはマーカーで強調した【図21】。



【図21】フライヤー

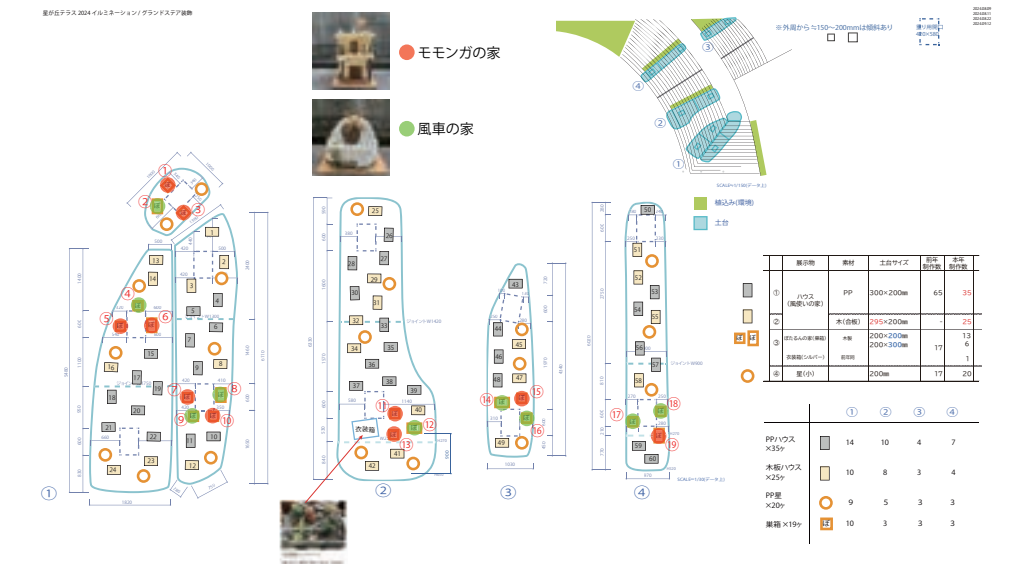
12. 展示

期 間：2024年11月9日～2025年2月2日

場 所：星が丘テラス EAST グランドステア（大階段）

13. 設置位置

設置する場所にそれぞれ番号を付けた。納品をする際に分かりやすくするため、“モモンガの家”は赤色、“綿毛の家”は緑色の印で表した。赤の線は“ぼたるん”のモモンガの服の洗濯物を吊るす位置である【図22】。実際に家同士を並べてみてどの方面からでも見やすいような配置にした。



【図22】設置図

14. アンケート、パンフレット

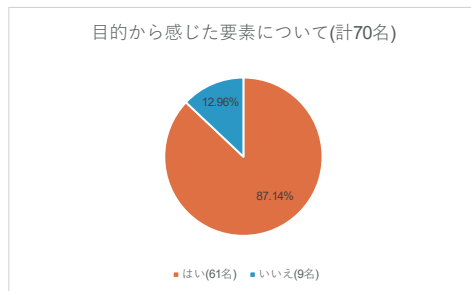
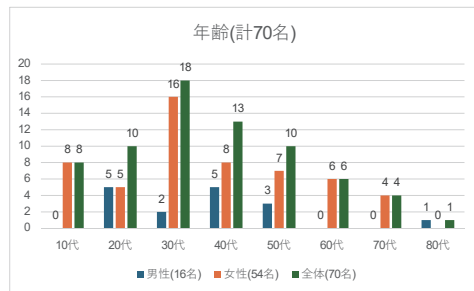
展示期間中にイルミネーションについて、本企画で制作したものについてのアンケートを実施した。(回答人数男性 16 人、女性 54 人、計 70 人) 下記にアンケート内容を記す。アンケート結果は【図 23】である。

●ご自身についてお伺いします。

- 性別 男性 女性
- ご年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代

●星が丘テラスについてお伺いします。

- 星が丘テラスにはどれくらいの頻度で訪れますか? ほぼ毎日 1週間に2〜3回程度 1週間に1回程度 1か月に2〜3回程度 2〜3か月に1回程度 半年に1回程度 1年に1回程度 初めて
- 今日訪れた目的は何ですか? (複数回答可) イルミネーション お買い物 学校 犬の散歩 その他()
- 今回の企画についてお伺いします。
- “モモンガの家”についてどのように感じましたか? とても良い 良い 普通 悪い とても悪い
- 5のように答えた理由をお願いします。
- “綿毛の家”についてどのように感じましたか? とても良い 良い 普通 悪い とても悪い
- 7のように答えた理由をお願いします。
- 洗濯物や風車、風見モモンガ、家具などの装飾についてどのように感じましたか? とても良い 良い 普通 悪い とても悪い
- 9のように答えた理由をお願いします。
- 私たちの企画の目的の一つである『イルミネーションを昼間でも楽しむこと』といったものを掲げていますが、この目的から感じた要素はありましたか? はい いいえ
- 11で「はい」と答えた方はどこからどのように感じましたか? また、「いいえ」と答えた方はどのように答えた理由をお願いします。
- このイルミネーションはどのように知りましたか? (複数回答可) 橋本雅好研究室のInstagram投稿を見て 星が丘テラスさんのInstagram投稿を見て ご家族から聞いた 知人から聞いた 知らなかった その他()
- イルミネーションに訪れる機会は今までに何回ありますか? 2回目 3回目 4回目 5回目 6回目以上
- 14で2回目以上を選択した方にお伺いします。昨年のイルミネーションと比べて違うと感じる点や良いと感じた点がありますか?
はい いいえ 覚えていない
- 15のように答えた理由や具体的な点をお願いします。



【図 23】 アンケート結果

10代が 8 人、20代が 10 人、30代が 18 人、40代が 13 人、50代が 10 人、60代が 6 人、70代が 4 人、80代が 1 人の方々がアンケートに協力してくださった。私たちの企画の目的の一つである『イルミネーションを昼間でも楽しむこと』といったものを掲げており、この目的から感じた要素はあるかという質問に対しては、はいと回答した方が 61 人の 87.14%、いいえと回答した方が 9 人の 12.86% という結果になった。下記に具体的な回答を一部記す。

- ・たくさんの工夫が散りばめられていて、どの角度からも楽しめると感じました。
- ・新しい考えだと思った。廃材を利用してうまく作ってある。
- ・生活感があり星が丘テラスにマッチしている。
- ・イルミネーションというより装飾として見てしまう。

また、その際に制作したものをより深く知ってもらうためのパンフレットを制作した【図 24】。パンフレットは A4 サイズの三つ折りとなるようにデザインした。表面には風使い“ぼたるん”の家の制作目的や“ぼたるん”についての説明、橋本雅好研究室のInstagramのQRコードを記載した。裏面は 19 個の家をそれぞれ載せ、目印となる“風見モモンガ”、“風車”などの特徴をまとめた。



【図 24】パンフレット



15. 設置後の様子

実際に設置したものが【図 25】である。洗濯物によって全体的に見た時に目にしやすくなった。“風見モモンガ”、“風車”は遠目でも目立った。サイズや色合い、装飾で椋山女学園大学の学生が授業で制作した家との区別がついたように感じた。一般的な点景は夜に楽しむものであるが、点景を昼間でも楽しむことができるという目的を新たに作る事ができた。



【図 25】設置後の様子

16. 展示中の様子

展示中の様子である【図 26】。幅広い世代の方が写真撮影を楽しんでいた。夜の様子は昼の雰囲気とは異なり全体の雰囲気の温かみが増したように感じた【図 27】。また、【図 28】のように壊れてしまった点景は定期的にメンテナンスを行った。



【図 26】展示中 昼の様子



【図 27】展示中 夜の様子



【図 28】壊れてしまった点景

17. インスタグラム投稿

パンフレットだけではなく、橋本雅好研究室のInstagramのストーリーでそれぞれの家の特徴をまとめた【図 29】。ストーリーの1枚目は左の画像を表紙として、2枚目に家の説明、3枚目に実際の写真を記載し、どのように設置されているのかをイメージしてもらい、4枚目以降は2枚目、3枚目と同様にして次の家の説明の画像を投稿した。11月29日(金)〜12月6日(金)の間、一日に3種類の家を投稿した。

12月6日以降は毎週水曜日と金曜日に風になびいている様子を見てもらうことを目的として動画をストーリーに投稿した。ストーリーの投稿はハイライトにすることで他の投稿に埋もれずに一目で分かりやすくなった。Instagramのハイライトのカバーは円であるため、カバー用の画像も作成した【図 30】。円に収まるように正方形の画像にした。また、文字が小さすぎてしまうと分かりにくくなってしまったため、一目で本企画の内容であることを端的にまとめてわかりやすいと感じてもらえるようなデザインにした。そして、芝生の色をフライヤーに合わせることや、“ぼたるん”を画像の至る所に入れることで、1枚の画像だけを見ても本企画の内容であることがわかりやすいよう工夫した。



【図 29】ストーリー用画像の一部

【図 30】ハイライト用カバー画像

18. 企画結果

アンケートを取ることで第三者の意見を直接聞くことができた。「イルミネーションを昼間でも楽しむことができるかどうか」という質問で、「はい」と回答していただいた方は、夜に外出しない方や、昼間だと家の細部を除くことができるという意見や、“イルミネーションといえば夜”という固定観念を持ち続けていたら進歩がなく、こういった発想は若い人の考え方の特権と感じたという意見をいただき、新しい発想によって私たちの企画を楽しんでいただける方が多く、目的が果たせたと感じた。一方、「いいえ」と回答した方は、家の装飾自体はとても良いが、イルミネーションというよりは装飾として見てしまうという意見をいただいた。この結果から、イルミネーションは光が灯されている状態のイメージが強いので光を表現されていたらより目的の達成に近づいたのではないかと感じた。

19. まとめ

イルミネーションを見ている様子を観察すると、性別や年齢を問わず写真を撮影して楽しんでいただけたと感じた。小さい子どもは洗濯物や家具から“ごっこ遊び”から連想し、楽しんでいた。また、ご高齢の方々は家全体の雰囲気を楽しんでいる方が多いと感じた。外国人の観光客が楽しみながら写真を撮ってくださったことがとても印象深かった。この企画を通して、人それぞれ感性が異なり、見る人によって見方が異なるという発見があった。星が丘テラスのボタニカルタウンを担うという目的は、廃材を使用していることの良さを沢山の方々から褒めていただいたことで目的を果たすことができたのではないかと感じた。先輩から受け継いだ私たちの企画を後輩にも引き継ぎ、星が丘テラスのボタニカルタウンの提唱を担う企画をこれからも続け、沢山の人を引き付ける星が丘テラスであり続けてほしいと感じた。